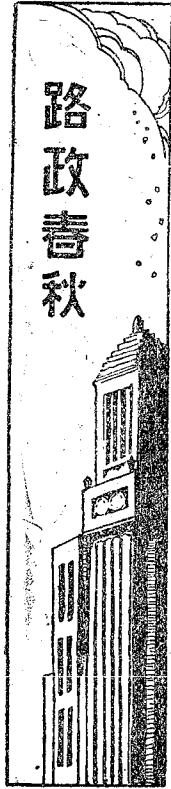


路政春秋



都市道路の御腹は防

空室

客年十二月號の本誌に井上弘道氏の「空襲下の都市道路」と題し有益な論文が掲げられて居つたが愈々夫れが姿となつて現はるゝことゝなつた即ち其事實は次の通り我が國最初の地下防毒室が近く東京、大阪、吳の三重要都市に出現する、——内務省では空襲時に備へるため全國重要都市のビルディング地下室を改造して防護室に充て得るやう補助金を交付して實現の徹底を期してゐるが、更にこれとは別に通行人の避難地下防護室を前記三都市の繁華街に設け防毒施設の強化をはかることになつたものであ

る、來春は先づ試験的に三市に一ヶ所宛設ける管で東京では地下鐵やビル街と重複せぬやうな場所でも道路の幅二十二メートル以下ある交通の頻繁な交叉點を選ぶことになつてをり淺草田原町、同雷門、神田須田町、同駿河臺下、日比谷交叉點などが候補に擧げられてゐるが内務省計畫局町田技師、市土木局員等が實地調査の上近く決定する筈である、大阪は既に大阪驛前に施設と確定工事に着手するばかりになつてゐる。防護室は土冠り一メートルの地下に百キロの爆弾に十分堪へ得る強力な鐵筋コンクリートで作られる、鋪道の四方から階段を通じ出入、地下には少くとも道路と同じ幅の廣場があつてイザといふ時には出入口

注

本欄は讀者諸氏の利用に提供す、治安と風俗とを害し又は人身攻撃に涉らざる限り奇想天外的の寄稿を望む、一文は四百字位にて取捨は編輯子に一任、原稿は道路の改良編輯部宛のこと。

を閉鎖して僅に三百名以上の民衆が待避出来る仕組である、平時は横斷地下鋪道に利用交通の緩和ともなる一石二鳥案なので當局は將來各交叉點毎に施設したいと意氣込んでゐる。

非ガソリン式自動車の出現

窮すれば通すとかや世を擧げての自給自足經濟時代にガソリンのないイタリヤで水で走る自動車が発明され既に試運転も終つて街の話題を賑はしてゐる、發明者はコンパルヂアのベルガモ市から二十一キロ計り離れてゐる一寒村アルビノに住む一紡績技師でピエトロ・フアスコリと呼ぶ人。自動

車の後部に豫備を含む三個のタンクを裝備、水壓式の氯化器をつけて水を分解、酸素を排出して是にタンク中の特殊酸と食鹽を作用せしめ時速六十キロで車を動かすといふのである。此發明が完成して實用に供され、ば大した事になるとイタリア人の間では素晴らしい評判である。水自動車？

街路樹杉並木に異狀

あり

日光街道の名所杉並木に次の如き異狀がある。即ち參道並に境内の杉はいづれも三、四十年を経過した老杉が多く従つて枯死するものも多く神社當局でも腐朽せる部分に對してはコンクリートを詰る等の保護策を考慮してゐるが杉並木はいづれも文部省で天然記念物に指定して居り補植並に保護についてはいづれも本省の許可を發し社務所では最近補植につき本省の許可を求めたところ文部省は現場維持主義で補植を認めず従つて老齡期に入つてゐる杉並木は年々枯

死せるものが整理されるにつれてその數を減じ將來は日光名物杉並木も次第にその姿を消すに至るので東照宮社務所並に日光町觀光當局では天然記念物指定法を固執せる本省の態度を不可解として補植許可運動を進めることになつたと傳へらる。

悲壯な明文と珍妙な

明文

(1) 山西省開喜縣の開喜城死守の名文句である、開喜城は去る四月敵の重包圍下に陥りわが神山隊が犬を喰つても死守したところ

敵ハ増シ、練ハ茂リ月未ダ出デス、彈藥ツキルモ援隊ヲ乞ハズナレド敵陣城壁ヲニルガス、糧秣ニカヘン犬マダ多ケレバ粉骨碎身モツテ死守セム決意ハカタシ、神山隊

の悲壯な文字が當時の決意振りを語りその壁書の裏側には大小無數の敵彈の痕が歴然り残り如何に當時は激戦が展開されたかを

如實に示してゐる。

(2) 某縣の某村役場から、子福者表彰式がある故參列されたいといつて來た忙しいのを繰合せて參列した。式は小學校の講堂。參列者は役場員、村の名譽職、學校職員その他男女青年團員に青年學校生徒等であつた。型の通りの式が擧げられ、村長は壇上から、縣知事よりの表彰狀を、産兒十人以上の子福者に授與せられた。續いて村長の祝辭があつた。その祝辭が頗る振つてゐる。
「……受賞者諸君は、何れも平素衛生に注意せられ、強健なる體格と不屈の努力とを以て、多産今日の榮譽を擔ひ、衆人の模範を示せるは誠に慶賀に堪へない次第であります。なほ今後とも御夫婦には十分身體に留意せられ、老いて益盛んに協力一致、斯道のために精進努力されん事を、切に希望する次第であります。」と結んだ時、參列者一同は、宛もしめし合せたやうに、下を向いてみな噴出した。勿論、祝辭の論理に錯誤があつたわけでもなければ、殊更奇矯を

街つたのでもない。村長はたゞお上の命令のままに、その意を過らぬやう、忠實に力説したまでである。笑はざるを得なかつたのは、式の本質そのものと、多産要望の露骨なる表現とであつたと。

セメントに敬遠され

た土木事業

建築土木材料の拂底深刻化から明年の府縣や市の土木工事はどうなるか、セメント、鐵材は益配給不圓滑を來たして居り殊にセメント會社では納入方法や支拂の難かしい官公衛敬遠主義をとつてゐるため工事を請負つた請負業者はセメントの入手に一番困惑をして居り、各土木工事とも人夫拂底ばかりでなくセメントの不足によつて工事遅延をしてゐるところが大部分を占めてゐるといつた状態である。石炭不足のためセメントの製造は大減産をしてゐるため苦しみをしてゐるのは皮肉である、セメント會社やセメント商が府縣市などへ納入を嫌

つてゐるのは、納入手續が繁雜な上、いざ納入の段取となると何處へ納入すべしと來る、納入が終ると今度は小むづかしい検査をうけることになる、その上勘定は何ヶ月後になるのかわからないと來ては商賣あがつたりである、今まではよいとして今時これぢやどうにもならないでせうとの話。

黄金の洪水とは耳寄

な譚

無盡の寶庫發見さるとは恐悅の福音Ⅱ
臺灣總督府の試掘先遣隊がタツキリ溪タビト金礦區に赴き大掛りな金試掘を行つてゐるをりから、またもタビト地方十八キロの地點にある大濁水溪上流にタツキリ溪の砂金區に匹敵すべき素晴らしい砂金礫層が發見された、タツキリ溪タビトで砂金の寶庫を發見した總督府礦務課では大濁水溪の段丘の状態はタツキリ溪のものと同一である點から推理して有望な含金礫のあることを確信し、技師を現地派遣し十一月十四

日より十二月十日まで二十七日間にわたり平面積五、六十萬坪の段丘礫層を實地調査せしめた結果、ビヤハウ社北方において一立方十グラム以上と豫想される有望なる含金礫層を發見するにいたつた、この濁水溪の砂金はタツキリ溪と同様中央山脈より金の供給をうけ堆積含金礫層を形成するものでこれによつても東部臺灣の各河川には莫大な砂金層があることが證明される。

あるかなきかの珍聞

奇譚(86)

安倍川畔の古墳の小棺Ⅱ
過般靜岡市安倍川畔蜜柑畑で發見された小墳について十日間程現地出張してその發掘に當つてゐた東京帝室博物館後藤鑑査官の調査の結果、圖らずも我が考古學界に得難き二つの資料を鑑定せられたともたらした。この古墳は今から凡そ一千三、四百年前の上古、古墳時代としては中期末から後期の始め頃に造られた「前方後圓」の地方豪族の墳墓と想

像されるが、計らずも「此種の墓に特有」の「造出」——前方祭壇と後方墓所との間に張り出してゐる部分から、塙輪の馬が四頭發掘され、造出の用途研究に重要な資料を提供し又この古墳から不思議な土製の小棺が發見されたが、これには庭がなく塙輪の足首が入れてあり初め殉死の代りとして埋没したものがいつの間にか裝飾に隨して終つたものを、この時代に再び殉死の意味を復元したものでないかと考へられるにいたつた。

奥越桃の木峠の箸立杉↓福井縣下一の大杉大野郡石徹白村の『十二抱の大杉』が枯死に瀕して、命且夕に迫つてゐる折柄、これに代る名木『箸立杉』の保存運動が大野郡下に擡頭してゐる『箸立杉』は阪谷村から經ヶ嶽山系を越えて五箇村にいたる桃の木峠（海拔八百メートル）の頂上に亭々として聳える頗る風致ある老杉で古來からの山越え道中者には懐しまれた存在であるのみならず、その杉の傳説としてはその昔泰

澄大師が白山開山に赴く中途にしてこの峠に憩ひ中食した際、何か名物を残したいと杉箸の一本を土中に挿し込み『汝靈あらば成長せよ』といひ残したのが今日大きくなつたものと傳へられ、今なほ地方民の崇敬の的となつてゐる名木だといふのである。

狸と浮いた鐘の悲哀↓シヨ、シヨ證誠寺……「狸難子」の童謡で名高い千葉縣木更津町證誠寺の梵鐘も、打寄せる時局の波に重い御腰をあげ軍需資材となつて前線へ罷り出ることとなつた、奉公義會の提唱による軍需金屬獻納運動に應へて餘り多くない木更津町内の寺院でも各々退蔵する金屬類を洗ひざらひ役場に持參、心強い銃後の赤誠を披瀝してゐるが證誠寺でも他寺に遅れずと物色したが恰好のものなく結局同寺傳來の古鐘が鐘樓腐朽のため現役を退いてゐるのに着目、四百年のその昔善男善女が御佛への純情を打込み今尙權徒一同が寺寶とあがめるその銘鐘もこの未曾有の聖戰に一役買ひ得ればこれ以上の「大願成就」はあ

るまいと近く檀家總代會を開いて獻納の件を決定するとか↓あの鐘の餘韻は縹緲として得もいはれず、きつと澤山純金が鑄込まれてゐるらしいですとは檀徒の噂↓狸と浮いた秋もあつた名鐘、つげば鳴る鐘、賣らねばならぬ鐘の悲哀乎。

笹窓の煙短檠の下に釜睡

杉

風

冬の灯や獨むかへる將棋盤

耕

雪

寒燈の下に餅焼く妻とわれ

小

竹居